

学び直し

2022. 1. 18

以前、勤めていた梁川高校には「学び直し」という言葉が存在した。梁川高校の校長として、各中学校の高校説明会に出向き、中学3年生を前に話をする機会があった。こんな話をしていた。

「皆さん、勉強がわかりますか。わからないこともあるでしょ。もう一度、説明してほしい、同じ授業をしてほしいと思うことはないですか。そう思っている、授業はどんどん進んでいくので、じっくり復習することはむずかしいでしょ。自分ではなかなかできないでしょ。勉強というのは、もう一度じっくりやってみると、意外とわかるものなんです。梁川高校では、数学や英語を中心に、中学1年生の復習からやっていきます。数学は小学校の復習をすることもあります。それを『学び直し』と言っています」このような話をすると、どの中学校でも必ず真剣な眼差しで耳を傾けている生徒がいる。

大学でも、数学や英語ができない学生に対して学び直しのようなことをしていると聞く。わからないのに、さらに難しい勉強をしても、それは無理である。長女が通う大学では、入学時に英語のテストを行い、その結果でクラス分けをした。習熟度の指導をするわけである。英語の学力をつけるためである。そうしないと、先に進めない。

本当は、小学校や中学校でわからないままにしないで、じっくり復習できればいいのだが、そのようなカリキュラムにはなっていない。やるべきことが決められており、自由度が低い。先生方も、やるべきことをこなすだけで精一杯の状態である。

梁川高校の生徒は、学び直しの結果、わからないままだったことがわかるようになり、できなかったことができるようになる。そして、自信をもち、就職や進学へと向かっていく。

私のことだが、高校のときに、意欲に燃えて世界史を選択した。だが、程なくして挫折した。授業で学習している世界史よりも、独学の日本史の方がよくできた。何年か前に、思い立って、山川出版の世界史の教科書を読んでみた。「あれっ、わかる」高校のときは、なぜあれほどにわからなかったのか、不思議である。

実は、中学校3年間分の英語の復習をしたこともある。やってみてわかったことがある。中学校の英語ができれば、それほど不自由はしないということである。

勉強は後からでもできる。いつでもできる。とはいえ、多くの小学生や中学生は、今、わかりたいし、できるようになりたいのである。このニーズにいかに応えるか。「野田中学校版『学び直し』」はどうだろうか。タブレット端末を活用する手はないだろうか。そんなことを考えている。人生のやり直しは容易いことではないが、学び直しならばできそうである。